

全学共通授業科目履修案内(令和3年度入学者用)

※ 専門科目など全学共通授業科目以外の履修については、開講学部の掲示等で確認してください。

1. 全学共通授業科目の基本事項

1.1 全学共通授業科目とは

全学共通授業科目とは、本学の教学規則に定める授業科目のうち、基礎教養科目・総合教養科目・外国語科目・情報科目・健康・スポーツ科学および専門教育の準備や導入となる共通専門基礎科目などの全学部に通ずる授業科目をいいます。全学共通授業科目の企画・運営は、国際教養教育院が行っています。

1.2 全学共通授業科目の履修について

1.2.1 授業期間・授業日程・授業時間

・授業期間

1年間で2学期に分け、4月～9月を「前期」、10月～3月を「後期」とし、前期・後期の授業期間をそれぞれ半分に分けた、各8週の授業期間を「クォーター」と呼びます。前期には第1・第2クォーター、後期には第3・第4クォーターがあります。第○クォーターを「○Q」と略して表記することがあります。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
前期						後期					
第1クォーター		第2クォーター		夏休み		第3クォーター		第4クォーター		春休み	

・授業日程

授業日程は、国際教養教育院 HP>「新入生の方へ」のページ>「令和3年度全学共通授業科目授業予定表」に PDF ファイルを掲載しています。

・授業時間

授業は下記の時間帯に実施します。

授業時間は1コマ90分、1クォーターあたりの授業期間は8週間で実施します。

時限	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限
授業時間	8:50～	10:40～	13:20～	15:10～	17:00～	18:50～
	10:20	12:10	14:50	16:40	18:30	20:20

* 専門科目等各学部で行われる授業については異なる場合があります。

・定期試験

定期試験は、各学期・各クォーターの最終週の1週間でいきます。定期試験は、通常授業とは異なる曜日・時間帯で実施する場合がありますので注意してください。なお、追試験は原則として行いませんが、急病・忌引き等により定期試験を受験できなかった場合、所定の手続きを期限までに行えば、追試験の受験を認めることがあります。

1.2.2 全学共通授業科目の履修計画の立て方・登録の進め方

学部で定められている履修に関するルールを理解する

・卒業するために修得すべき単位(※1)数、履修可能な科目、各科目を履修する学年・学期、履修登録できる単位数の上限(※2)等について、所属学部の「[学生便覧](#)」で確認しましょう。

時間割表・シラバス(※3)・「全学共通授業科目の履修について」をもとに、全学共通授業科目

・時間割表等をもとに、**必修科目**が開講される曜日・時限を確認しましょう。
→必修科目・選択必修科目・選択科目は、学部毎に定められています。所

<p>の履修計画を立てる</p>	<p>属学部の「学生便覧」で確認できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間割表等をもとに、その学期に履修する選択必修科目・選択科目を考えます。 ・授業科目の内容は、うりぼーネット(※4)のシラバスで確認できます。 ・原則として、所属する学部・学科等により指定された曜日・時限の授業科目(学部指定開講枠)を履修しますので、時間割表等で確認してください。 ・科目によっては、学籍番号等により受講するクラスが指定されていることがありますので、時間割表で確認してください。 ・同一授業科目は、曜日・時限が異なる場合でも重複して履修できません。 ・科目により履修登録の方法が異なりますので、各科目の履修登録方法をよく確認してください。
<p>抽選登録(※5)を行う (1年次1Q科目は抽選登録を行いません。)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抽選登録期間中にうりぼーネットで抽選登録を行います。 ・基礎教養科目・総合教養科目は抽選登録の対象です。 ・基礎教養科目・総合教養科目は、1年次2Q科目から抽選登録が可能になります。 ・抽選登録期間は、下記のページで発表されています。 http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/study/index.html
<p>履修登録(※5)を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修登録期間中にうりぼーネットで履修登録を行います。 ・履修登録期間は、学期開始前に発表されます。(以下ページを参照) http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/study/index.html
<p>その他の方法で登録を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各科目の指示に従ってください。
<p>「履修登録一覧(提出用)」または「履修科目一覧表」を提出</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・履修する科目をすべて登録し終わったら、所属学部の指示に従って、「履修登録一覧(提出用)」または「履修科目一覧表」を提出期限までに所属学部の教務担当係へ提出してください。
<p>履修取消(※5)を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・抽選登録又は履修登録を行った科目を、途中で受講を中止する場合は、履修取消期間中にうりぼーネットで履修取消を行うことができます。なお、履修取消しても、その科目は履修登録単位の上限に含まれます。 ・履修登録期間は、以下のページで発表されます。 http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/study/index.html

全学共通授業科目の授業の実施方法は、各科目のシラバスや BEEF (神戸大学学修支援システム) に掲載します。

初回授業当日には BEEF へのアクセスが集中することが予想されます。必ず初回授業の前日までに各科目の情報を確認し、必要なものはあらかじめ自分のパソコンにダウンロードしましょう。

また、遠隔授業に関する URL やパスワードは個人で保管し、SNS 等で公表はしないでください。

なお、履修登録が BEEF に反映されるのは、履修登録した日の翌日からです。つまり、初回授業の前々日までに履修登録を完了している必要があります。

全学共通授業科目の履修登録や抽選登録期間については『2.1 全学共通授業科目に関する通知』にて示す方法でアナウンスをします。特に、2Q の履修登録期間や、後期 (3Q4Q) の各登録期間を間違える人が多くいます。登録期間内に登録を忘れた場合は、授業を履修することはできません。必ず各登録期間内に登録をしてください。

*後期 (3Q、4Q) の抽選登録期間は例年、夏休み期間に実施します。忘れないようにしてください。

▶ 用語の解説

※1 単位

授業科目の学修目標を達成するため、一定の基準に沿って必要な学修時間数が定められています。この時間数を単位といい、1単位は、授業と授業外の学修時間を合わせて合計45時間を要する内容であることを表します。単位数は科目により異なります。授業科目を履修し、学修目標を達成していると評価されれば、単位を修得できます。また、卒業の要件として学生が修得すべき単位数は各学部等において定められています。

※2 履修登録上限単位数

学期又は年間に履修登録できる単位数の上限が、学部・学科ごとに定められています。履修登録上限単位数は”CAP(キャップ)”とも呼びます。所属学部の「学生便覧」で具体的な単位数等を確認してください。

※3 シラバス

シラバスとは、各科目のテーマや授業計画、授業の概要等を確認することができる資料です。うりぼーネットのシラバスで内容を参照することができます。

※4 うりぼーネット

うりぼーネットとは神戸大学教務情報システムの愛称です。うりぼーネットの利用には、情報基盤センターが発行したアカウントが必要です。

※5 履修登録・抽選登録・履修取消

履修とは、ある科目を受講することです。履修するには、学生各自で科目を登録(履修登録)する必要があります。人数制限等のため抽選の上、履修登録する(抽選登録)場合もあります。途中で履修を中止する場合には、履修を取消することができます(履修取消)。

▶ 注意

- ・大学側で事前登録を行う科目を除き、**学生自身が、指定された期間中に登録の手続きを行う必要があります。**
- ・履修・抽選登録期間終了後に登録済みの科目を別の科目に変更することはできません。
- ・**登録間違いや登録もれのまま受講しても、単位を修得できません。**万一、登録間違いや登録もれに気付いた時は、速やかに所属学部の教務担当係に相談してください。

2. 全学共通授業科目に関する通知・窓口

2.1 全学共通授業科目に関する通知

全学共通授業科目に関する通知・連絡は、通常は、主に国際教養教育院掲示板(鶴甲第1キャンパス K 棟1階)により通知を行います。必要に応じて、うりぼーネットの掲示板、国際教養教育院 WEB サイト(アドレスは下記枠内)を活用して通知を行う場合もありますので、日ごろから確認してください。(次頁の配置図参照)

【注意】掲示を見落として不利益を受けたとしても、大学は責任を負いません。

2.1.1 履修・授業・試験等

主に国際教養教育院掲示板で連絡しますが、必要に応じて国際教養教育院のホームページやうりぼーネット掲示板にも併せて掲載する場合があります。K棟1階屋内の所属学部別掲示板には、特定の学部学生への連絡事項や所属学部からの連絡事項を掲示しています。

国際教養教育院 WEB サイト

<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/zengaku.htm>

学生向けポータルサイト うりぼーポータル

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/student.html>

(うりぼーポータルより教務情報システム「うりぼーネット」へ接続できます。)

2.1.2 休講・補講

うりぼーネットの休講補講照会でお知らせします。

(ただし、各科目の BEEF で休講・補講について連絡することもあります。)

2.2 窓口

2.2.1 学務課共通教育グループ

全学共通授業科目に関すること全般(抽選登録、定期試験・再試験・追試験・留学に伴う繰り上げ試験)、国際教養教育院が管理する教室の使用に関すること、全学共通授業科目における授業中の事故、盗難、拾得物に関することについては、学務課共通教育グループ(鶴甲第1キャンパスK棟1階)で受け付けています。

※進級・卒業・履修登録単位数の上限に関することは、所属学部の教務担当係に問い合わせてください。

〈窓口業務時間〉 平日 8:30~11:30、12:30~17:00

※11:30~12:30は入室できません

★新型コロナウイルス感染の影響がある間は、極力事務室の訪問は控えてください。

全学共通授業科目に関する疑問点については、まず学生便覧や時間割、大学 HPをよく調べ、それでもわからなければ、共通教育グループへ連絡してください。

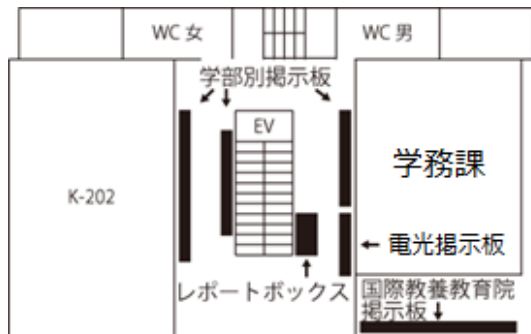
2.2.2 レポートの提出場所

全学共通授業科目のレポート提出は鶴甲第1キャンパスK棟1階のレポートボックスもしくはBEEFを活用した提出方法があります。各科目の授業中の指示に従い、期限までに提出をしてください。

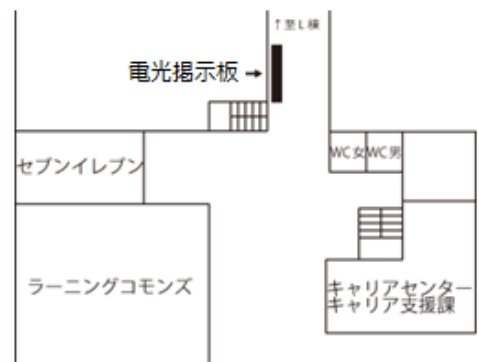
【注意】

- ・レポートには提出期限が設けられています。提出期限を過ぎたレポートは、理由を問わず一切受領しません。
- ・回収後に意図的に投函されたレポートは無効とします。
- ・誤って他のレポートボックスに入れた場合はすぐに申し出てください。そのままですと、担当教員には届きませんので成績評価ができません。
- ・平日の夜間及び休日はK棟建物内へ立ち入ることはできません。

《K棟1階》



《A棟1階》



3. 令和3年度前期第1クォーター・第2クォーター全学共通授業科目の履修について(1年生向け)

3.1 全学共通授業科目の授業開始日

- ★令和3年度前期の全学共通授業科目の授業は、4月12日(月)から行います。
詳細は、「令和3年(2021)度 全学共通授業科目授業予定表」を参照してください。
なお、所属学部専門科目の授業開始日は異なる場合があります。

3.2 1年生の令和3年度前期開講科目の登録方法

令和3年度前期開講科目について、授業科目区分ごとの登録方法は下表のとおりです。
履修登録・抽選登録の期間については以下に掲載しています。

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/study/index.html>

【注意】

- ・所属する学部・学科等により指定された曜日・時限の授業科目(所属学部・学科の時間割表に記載されている授業科目)を履修してください。
- ・登録が完了していない授業科目は受講しても単位を修得できません。

授業科目の区分等		履修登録方法
基礎教養科目		②
総合教養科目		(一部科目④)
外国語科目	外国語第Ⅰ	③
	外国語第Ⅱ	③
情報科目		「情報基礎」:③
健康・スポーツ科学		実習:④ 講義:②
共通専門基礎科目		① (一部科目④)

- ①履修登録(履修登録期間内に履修登録手続が必要です。)
- ②抽選登録(抽選登録期間内に抽選への応募が必要です。)
- ③事前登録(大学側で登録を行います。)
- ④その他の方法で履修者の選抜を行う科目

3.3 科目別注意事項

3.3.1 基礎教養科目及び総合教養科目

登録方法:②抽選登録(一部の科目を除く)

【1次抽選】対象:全学部生

抽選登録の手順

うりぼーネットのマニュアルも確認してください。

http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/uribo_net/uribo_info.html

(1)まず、自学部(学科)にどの曜日時限が割り当てられているか(※)確認します。

※所属する学部・学科等によって履修できる曜日・時限が決まっています。これを「学部指定開講枠」といいます。

具体的な曜日・時限は所属学部が配布する時間割表や、国際教養教育院 WEB ページ(下記)で確認しましょう。

<http://www.iphe.kobe-u.ac.jp/jimu/kyomu/jikanwari/index.html>

(2)シラバスで各科目の内容を確認し、希望順位を決めます。

(3)抽選登録期間にうりぼーネットの「抽選登録」から、希望順位を登録します。

(4)自身が抽選登録した内容をうりぼーネットの「抽選申込内容確認」より確認します。

(5)抽選結果発表日、うりぼーネット>「履修登録・登録状況照会」にて当選科目を確認してください。

この照会画面で登録されていれば、すでに登録が完了していますので、自分であらためて履修登録を行う必要はありません。

(注意)

●応募した曜日時限に科目が登録されていない場合は、以下の理由が考えられます。

・希望順位を登録したと思っていたが、正しく登録が完了できていなかった。

(このようなことがないよう、抽選登録期間中に(4)の確認を必ず行ってください。)

・応募したすべての科目が落選した。

(5限に開講される総合教養科目は、応募人数が多いため、落選する人数も多くなります。)

総合教養科目を修得する必要がある学生は、必ず学部指定開講枠の総合教養科目の抽選登録を行ってください。)

・応募した曜日時限にすでに別の科目が登録されていた。

(専門科目等と重複しないよう、よく確認してから応募してください。)

●原則として、決定された授業科目は変更できません。事前に専門科目等の時間割を確認した上で、抽選登録してください。(変更しなければならぬ明確な理由が生じた場合は、所属学部の教務担当係に申し出てください。)

●抽選で登録された授業科目を必ず確認の上、受講してください。(登録できていない科目を受講していた場合や、同じ授業科目名であっても別の時間割コードの授業を受講していた場合、単位修得できません。)

●複数の科目区分を同じ曜日・時限で抽選に応募すると、複数当選した場合に履修エラーとなります。事前に抽選に応募する科目区分を決定した上で、1つの曜日・時限に1科目区分のみ抽選登録を行ってください。

【1次抽選】 対象:各曜日時限で配当学部・年次の指定があります。時間割を確認してください。

【2次抽選】 対象:医学部および海洋政策科学部の学生 手順:基本的に1次抽選と同じ

- ・抽選結果の発表後、空き定員のある授業科目を対象に、うりぼーネットで「2次抽選」を行います。
- ・1次抽選で当選している科目からの変更は認められません。
- ・学部指定開講枠にかかわらず、すべての曜日・時限について抽選登録が可能です。
ただし、すでに登録されている曜日・時限の抽選に応募しても、当選科目を登録することは出来ません。
- ・人数制限がありますので、抽選漏れとなり履修できない場合もあります。

【3次抽選】 対象:全学部生 手順:基本的に1次抽選と同じ

- ・2次抽選結果の発表後、空き定員のある授業科目を対象に、うりぼーネットで「3次抽選」を行います。
- ・学部指定開講枠にかかわらず、すべての曜日・時限について抽選登録が可能です。
ただし、すでに登録されている曜日・時限の抽選に応募しても、当選科目を登録することは出来ません。
- ・1次抽選・2次抽選で当選している科目からの変更は認められません。
- ・人数制限がありますので、抽選漏れとなり履修できない場合もあります。

登録方法:④その他の方法(一部の科目のみ)

→該当する科目については、国際教養教育院 WEB サイトで周知します。登録方法の詳細も同サイトに掲載するのでよく確認してください。

3.3.2 外国語科目

登録方法:③事前登録

(今後履修する選択科目は、履修登録・抽選登録などで登録します。各学期開始前に登録方法を確認してください。)

外国語のクラス番号は、所属学部ガイダンスで配布された資料もしくは、うりぼーネット“学籍情報”に記載されています。具体的にはどの授業を履修するかは、以下の手順で確認してください。

- (1)外国語科目の時間割表で、クラス番号をもとに、どの時間割コードかを確認する。
(外国語科目の時間割表は、[こちら](#)のページに掲載しています。)
- (2)うりぼーネットの履修状況の画面で、手順1で確認した時間割コードで正しく登録されているか確認する。

すでに事前登録されている科目は、自分で改めて履修登録する必要はありません。

(注意)

- ・必ず指定されたクラスで受講してください。
- ・外国語第Ⅱ科目(ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語)は入学時に決定した言語を履修することになります。履修が決定した言語以外を履修しても卒業要件単位に含まれません。
- ・原則として、大学側が事前登録した科目は変更できません。変更しなければならない明確な理由が生じた場合は、所属学部の教務担当係申し出てください。

事前登録 対象科目	外国語第Ⅰ科目 (英語)	Academic English Literacy, Academic English Communication
	外国語第Ⅱ科目 (ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語)	〇〇語初級 A1、B1、A2、B2 ※「〇〇語」は選択言語です。

●外国語第Ⅰの英語特別クラスおよび英語外部試験に基づく単位授与

★令和3年度入学生の特別クラスおよび単位授与については、現在調整中です。今後、国際教養教育院や国際コミュニケーションセンターのWEBサイト等で確認してください。

3.3.3 情報科目

登録方法:1年次前期の「情報基礎」は③事前登録

大学が事前登録していますので、アカウントを受け取った後、うりぼーネットの「履修登録・登録状況照会」で、登録されている科目を確認してください。

3.3.4 共通専門基礎科目(対象学部のみ)

登録方法:

《講義科目》→①履修登録

- ・所属する学部・学科等により、履修できる授業科目・曜日・時限が決まっています。
- 科目によっては、学籍番号などでさらに細かくクラスが指定されている場合がありますので、時間割を確認の上、正しいクラスにうりぼーネットに登録して下さい。
- ・**必ず第1クォーター及び第2クォーター両方の開講科目を履修登録期間中に登録してください。**
(履修登録漏れがあっても、履修登録期間終了後に追加登録を行うことはできません。)

《実験科目》→基本的に①履修登録だが、科目によって教員への事前連絡等が必要なものがある。

- ・所属する学部・学科等により、履修できる科目・曜日・時限が決まっています。
- ・**必ず第1クォーター及び第2クォーター両方の開講科目を履修登録期間中に登録してください。**
(履修登録漏れがあっても、履修登録期間終了後に追加登録を行うことはできません。)
- ・履修登録の前に、担当教員への連絡などが必要な場合があります。
- 各科目の履修方法について必ず下記URLで確認してください。

物理学実験: <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/iphe-butsumori/pr/>

化学実験: <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/iphe-kagaku/index.html>

生物学実験: <http://www.edu.kobe-u.ac.jp/iphe-seibutu/>

地学実験: http://www.edu.kobe-u.ac.jp/iphe-chikyuwakusei/jikken_22.html

3.3.5 健康・スポーツ科学

登録方法:

《実習科目》→④その他の方法

- ・所属する学部・学科等により履修できる曜日・時限が決まっています。
- ・**初回授業はガイダンスを実施しますので、必ず出席してください。写真1枚(縦4cm×横3cm)を必ず持参のうえ、鶴甲第1キャンパス第2体育館に集合してください。**
- ・初回授業のガイダンスで履修クラス(種目)を決定し、履修登録カードを提出します。ガイダンスで提出した履修カードにより大学側で履修登録を行います。
- ・健康・スポーツ科学実習基礎は、原則対面授業にて実施をします。詳細の内容は、国際教養教育院 HP にて案内しています。確認をしてください。
- 前期:国際教養教育院 HP 「新入生の方へ」ページ
- 後期:国際教養教育院 HP 「在学生の方へ」▶「履修について」ページ

《講義科目》→②抽選登録

手順は基礎教養科目・総合教養科目の抽選登録と基本的に同じですが、2次・3次抽選は実施しません。

4. 全般的な注意事項

4.1 授業の欠席について

4.1.1 通常の授業を欠席する場合

(対面授業の場合)

○欠席することがあらかじめ分かっている場合。(教育実習、介護等体験などを含む)

→事前の授業に出席した際、必ず担当教員に事情を説明してください。

・定期健康診断と全学共通授業科目が重複する場合は授業を優先し、他の日時で健康診断を受検してください。

○急性の病気、忌引き(配偶者、二親等以内の親族)、不慮の事故、公共交通機関の大幅な遅延等で当日急遽欠席する場合。

→翌週の授業に出席した際、必ず担当教員に事情を説明してください。

どちらのケースも、教員に事情を説明する際、必ず欠席の理由が証明できるもの(診断書など)を教員に直接提出してください。授業の内容により、欠席に対する配慮ができないことがあります。

・教員の連絡先について、事務では学生からの問い合わせに応じません。

・通常授業の欠席に対する配慮の可否については、授業担当教員が判断します。

・専門科目の実習や集中講義と全学共通授業科目が重複する場合は、全学共通授業科目を優先してください。

判断に困る場合は事前に共通教育グループに申し出てください。

★<遠隔授業の場合>

メール等で教員に欠席を連絡する場合は、自身の所属・学籍番号・氏名・連絡事項を適切に伝えるようにしてください。

【注意】 本学には「公欠」制度はありません。

・ただし、特例措置として学長が指定した自然災害に関するボランティア活動への参加による授業の欠席については公欠を願い出ることができますので、所属学部の教務学生担当係に申し出てください。詳細は、キャリアセンター学生ボランティア支援室の WEB サイト で確認してください。

・病気や怪我などで 2 週間以上欠席する場合は「欠席届」を所属学部の教務学生担当係へ提出してください。(長期欠席を届け出る制度で、欠席に対する特別な配慮を届け出るものではありません。)

・裁判員制度により講義及び定期試験等をやむを得ず欠席する場合には、所属学部の教務学生担当係に申し出てください。

・課外活動については、正課(授業)が優先です。課外活動による欠席については、特別な配慮を行いません。(通常の欠席と同じ扱いになります。) なお、国際大会等に招集された場合は、学生支援課生活支援グループもしくは所属学部の教務学生担当係に相談してください。ただし、授業の性質上、配慮されない可能性もあります。

4.1.2 定期試験を欠席する場合

追試験は原則行いません。ただし、急性の病気、忌引(配偶者、二親等内の親族)、不慮の事故、公共交通機関の運休又は大幅な遅延、大学の授業科目として行われる実習(対象となるかどうかについて事前に K 棟事務室共通教育グループで確認すること)、その他やむを得ない事由による場合には、本人の願い出により、認められることがあります。

なお、協定に基づく留学をする学生または神戸大学の教育プログラム(海外で実施されるものに限る。)に参加する学生で、留学期間と全学共通授業科目の定期試験日が重なる場合は、定期試験の実施日の変更を認めることがあります。手続きの詳細については、「協定等に基づく留学に伴う全学共通授業科目の定期試験実施日の変更について」の掲示を、K 棟掲示板又は[国際教養教育院 WEB サイト](#)にて確認して下さい。

★遠隔授業・対面授業にかかわらず、定期試験の欠席について、詳細については国際教養教育院 WEB サイトで「追試験について」の掲示を確認してください。

- 交通機関の運休や気象警報の発表、避難勧告・避難指示(緊急)・災害発生情報の発令時における授業・定期試験の休講措置については、K棟掲示板又は神戸大学WEBサイト内うりぼーポータルの次のページを参考にしてください。

「交通機関の運休、気象警報の発表、避難勧告・避難指示(緊急)・災害発生情報の発令時における授業、定期試験の休講措置」

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymsys/student/green/access/index.html>

- ★「授業・定期試験の休講措置」のルールは上記サイトに掲載されますので、確認してください。

4.2 成績について

4.2.1 成績評価について

神戸大学の成績評価基準は、新入生ガイダンスで配付された学生便覧に掲載された「神戸大学共通細則」で定めています。授業科目ごとの学修目標、成績評価方法はシラバスで確認するとともに、初回授業内で担当教員から説明がありますので、不明な点がある場合は授業担当教員へ直接確認してください。

4.2.2 成績発表について

各クォーターにおいて成績発表日が決まっています。成績発表日にうりぼーネットの履修成績照会により、履修した授業科目の成績を確認することができます。成績発表日前に担当教員から学生への成績通知を行いません、また、学生からの成績照会には回答しませんのでご注意ください。なお、成績評価に対する申し立てを行うことができる制度がありますので、発表された成績に疑義がある場合にはこの制度を利用してください。

※各クォーターの成績発表日は、うりぼーポータル「授業／履修登録」カテゴリ内で確認することができます。学部によって、進級・卒業対象学生の発表日を変更していることがありますので、所属学部での掲示・通知を確認してください。

4.2.3 全学共通授業科目の成績評価に対する申し立てについて

履修した全学共通授業科目に関する成績評価について、当該授業科目の成績評価基準に照らして疑義がある場合は、成績評価について担当教員に説明を求めることができます。成績評価に対する申し立ては、成績評価の照会や評価の変更を願い出る制度ではありません。シラバスや授業内で示された学修目標・成績評価基準に照らし、成績評価に疑義を申し立てる正当な理由を有する場合にのみ、成績発表日から1週間以内に共通教育グループへ申し立ての事務手続きを行ってください。

4.2.4 不正行為について

全学共通授業科目の定期試験、成績を課すレポート(授業中に実施する小テスト・小テストなど、成績評価の対象となる試験・提出物を含む)等において、不正行為があった場合は、その学期に履修した全学共通授業科目の成績がすべて無効となります。

○定期試験または授業中における試験において、試験時間中に次の行為を実行した場合は、不正行為と認定することがあります。

- (1) 定期試験において、受験のために許可された物品以外(筆箱、下敷き、パソコン及び携帯電話等の通信機器を含む)を机上、または机の中に置いていた場合。
- (2) 持ち込みを許可されていないノート、教科書、プリント等も同様。
- (3) 他人の答案を写す、または他人に答案を写させた場合
- (4) 受験者に代わって受験、または他人に代理受験を依頼した場合
- (5) 試験内容について私語を交わす、または試験を妨害した場合
- (6) 試験監督の指示に従わなかった場合
- (7) その他、試験の公正性を損なう行為や成績評価を妨げる行為を行った場合

○成績評価のために課すレポート等において、次の行為を実行した場合は不正行為と認定することがある。

- (1) 他人の作成したレポート等の内容を書き写す(内容の一部を書き換えた場合を含む)、または他人にレポートの内容を作成させた場合
- (2) 故意に他人に作成したレポートの内容を書き写させる、または他人に作成したレポート等を提供した場合
- (3) レポート等の作成において剽窃(他人の著作物の内容等について出典を明記せず、自分の作成した内容とする等)した場合
- (4) レポート等の作成においてデータや画像の改ざん、捏造を行った場合
- (5) その他、レポート等の公正性を損なう行為や成績評価を妨げる行為を行った場合

※授業中に提出する小テスト、小レポート等の代筆について、代筆を依頼した学生、依頼されて代筆を行った学生共に不正行為の対象となります。手の負傷等はやむを得ない事情がある場合は、事前に担当教員へ相談の上、指示に従ってください。

※レポート作成の際に不明な点がある場合は、担当教員に事前に確認の上、指示に従ってください。

★不正行為に関して、遠隔授業における注意点を追加で掲示する場合は、国際教養教育院 WEB サイトに掲載します。

4.3 パソコン必携

神戸大学では、高度情報化社会において情報通信技術の十分な活用能力を有する人材を育成し、それらの技術を活用した教育の提供を目的に、パソコンの必携化を実施しました。

パソコンのスペックや注意事項については、以下の URL を確認してください。

<http://www.office.kobe-u.ac.jp/stdnt-kymysys/student/green/pcmust/index.html>

5. 全学共通授業科目の理念

5.1 教養教育の目標

神戸大学は、「学理と実際の調和」という開学以来の教育方針の下、教育憲章に示された「人間性」「創造性」「国際性」「専門性」を高める教育を実施するとともに、各学部がグローバル化に対応した様々な教育プログラムを開発してきた。このようなプログラムに参加する学生だけではなく、全ての学生を、自ら地球的課題を発見しその解決にリーダーシップを発揮できる人材へと育成することが学士課程の課題である。

そこで、全学部学生を対象とする教養教育において、神戸大学の学生が卒業時に身につけるべき共通の能力を「神戸スタンダード」として明示し、その修得を教育目標とする。

神戸スタンダード

➤複眼的に思考する能力

専門分野以外の学問分野について基本的なものの考え方を学ぶことを通して複眼的なものの見方を身につける

➤多様性と地球的課題を理解する能力

多様な文化、思想、価値観を受容するとともに、地球的課題を理解する能力を身につける

➤協働して実践する能力

専門性や価値観を異にする人々と協働して課題解決にあたるチームワーク力と、困難を乗り越え目標を追求し続ける力を身につける

5.2 全学共通授業科目の学修目標

・基礎教養科目

基礎教養科目は、人文系、社会科学系、生命科学系、自然科学系の4つの分野の科目より開講している科目から、自分が所属する専門分野以外の主要な学問分野について基本的な知識及び「ものの見方」を学び、理解することを目的とし、以下の区分毎に学修目標を定める。

(1) 人文系

人文系としては「哲学」、「論理学」、「倫理学」、「心理学」、「教育学」を開講する。「哲学」は人間の知的営みの蓄積であり、受講者には自身の専門領域がいかにか古代から現代にいたる思想に依拠しているかを理解することが求められる。「論理学」は、あらゆる分野で必要とされる推論、論証の基礎に関わる学問であり、受講者には自身の専門分野でも活用可能な論理的思考能力を身につけることが求められる。「倫理学」では、実社会でも通用する高い倫理観を身につけることが求められる。「心理学」は心のはたらきに関する実証的な研究を行うとともに、心の発達を明らかにし、さまざまな発達段階での心の問題の解決を支援する分野である。「心理学」の受講者には、人間の心のはたらきについてその応用可能性を含めた理解をすることが求められる。「教育学」では、知性・技能・情意等の授受という営みについての基本的理解と、教育行為が現代においてはたす意義について理解することが求められる。

(2) 社会科学系

自己の属する様々なレベルの〈社会〉に対する、科学的かつ複眼的思考と理解とを養うことを目的として、「法学」、「政治学」、「経済学」、「経営学」、「社会学」、「教育社会学」、「地理学」を開講する。「法学」では複雑化する現代社会において主体的市民として生きるための法学の知識・方法・理論を学ぶ。「政治学」では能動的な政治的主体に求められる、政治を知りそれを生きる知識・理論・方法を学ぶ。「経済学」では、ミクロ・マクロの様々な経済問題を理解するのに必要な基本的概念や分析枠組の習得を目指す。「経営学」では、企業・組織を中心に、経済社会の現場で発生する多様な経営課題に対する取り組みを、経営学の視点から学ぶ。「社会学」では、領域横断的かつ相対的な社会学のものの見方とその有用性を示す。「教育社会学」では、教育と社会との関係を社会的に分析することによって、学校教育がいかにか現代社会とのかかわりが深いのか、またどのような役割を果たしているかを示す。「地理学」においては、その基本概念や発展動向を踏まえ、その実証的・理論的両側面を学ぶ。

(3) 生命科学系

全ての生物にとってかけがえのない〈命〉は、今日の進歩した生命科学技術の下、そのメカニズムが新たに解明される一方で、病気などはまだ不明な部分も多い。本分野では、生命に対する複眼的思考を養うことを目的として、人類を初め地球

環境に暮らす多様な生命体の仕組みと、我々が生きていく上で必要な健康管理まで、基礎から臨床医学までを学ぶ。「生物学」では、生物の多様性、遺伝子、細胞の構造から機能まで、生物に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「医学」では、主要な病気の早期発見や早期治療ができるように、医学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「保健学」では、感染症の予防など、体調を管理して病気を防ぐことができるように、保健学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。「健康科学」では、健康な生活を過ごすために必要な生活習慣を身につけることができるように、健康科学に関する基本的な知識や考え方を学ぶ。

(4)自然科学系

高度に科学技術の発達した現代社会に対応する複眼的思考を養うことを目的として、本分野では、我々を取り巻く自然現象や社会現象が我々にどのように関わりを持つかについて、自然科学の観点と切り口から学ぶ。「数学」では、数理的思考における基本的な知識や考え方を学ぶ。「物理学」では、19世紀までに確立された古典物理学、あるいは、20世紀に構築された現代物理学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「化学」では、分子にまつわる微視的な内容に関して、あるいは、物質の性質など化学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「惑星学」では、惑星および諸天体、宇宙における地球、あるいは、惑星の姿や変動現象について、惑星学の基本的な知識や考え方を学ぶ。「情報学」では、コンピュータやスマートフォンなど、これらの身近な機器に利用されている情報技術の歴史や仕組み、最近の活用事例を知り、基礎知識を学ぶ。

・総合教養科目

総合教養科目は、多文化に対する理解を深め、多分野にまたがる課題を考え、対話型の講義を取り入れるなどの工夫により、複眼的なものの見方、課題発見力を養成することを目的とし、以下の区分毎に学修目標を定める。

(1)多文化理解

グローバル化の進展に伴い、現代では異文化間の交流が一層深化し、同時に、異文化に対する理解不足が深刻な不和を招来しかねない状況が現出している。

この科目群では、こうした現代世界の状況を的確に把握するとともに、多文化共生のあり方を模索するのに必要な知識を獲得し、思考力を養成することを目標とする。

より具体的には、多様な時代と地域の、歴史、社会構造、伝統、宗教、芸術を扱い、これらを通じて異文化に関する知識を獲得するとともに、比較文化的観点から分析することにより、異文化との共生につながる多角的な思考力を養う。

(2)自然界の成り立ち

私達を取り巻く自然界には様々な現象が存在し、日々変化している。これら自然界の様々な事象を、私達は体験を通して、関わりを持ちつつ理解している。しかし、多くが未解明であり、今後の研究の進展に負う面も大きい。従って、自然界の様々な事象を理解し解明していくためには、私達が自然愛を持って能動的に対応し、自然界を良く理解することが重要である。

この科目群では、私達の身近な現象として触れることの多い事象、例えば、科学技術と倫理の問題、現代物理学が描く世界像や身近な物理法則、自然界に見られるカタチにまつわる諸問題、ものづくりと科学技術における工学的な技術や将来展望、生命科学として身体の構造と機能の関係、生物資源と農業の今日までの関わりとその特徴、さらには昆虫や微生物との相関、などを取り上げ、私達の日常の問題として理解し、生活の中に取り込んで修得することを目標とする。

(3)グローバルイシュー

社会のグローバル化にともない、わたしたちは、国や地域の境界を越えて地球規模での解決が必要なさまざまな課題に直面している。この科目群では、これらの課題について理解を深め、その解決に指導的役割を果たす人材となるための基礎能力を身につけることを目標とする。

環境問題は、いうまでもなく地球規模の問題であり、自然科学と人文・社会科学の双方から幅広く接近する必要がある。また、人権、ジェンダー、政治や法制度、経済、ビジネスなど、わたしたちの生活に直結する問題領域も、いまや一国だけでは対処することが困難であり、地球規模の視点から取り組んでいくことが求められている。さらに、エネルギー資源・エネルギー技術や発電技術、都市安全技術などの科学技術の応用の考え方や社会における応用の事例についても、地球規模の視点から捉えることで最先端の技術動向を把握することが可能となる。

(4)ESD

この科目群では、〈地球〉を枠組みとした新しい教育運動であるESD(持続可能な開発のための教育)の本質と方法的な特徴を理解し、経済・社会システムの変更や人間のライフスタイルの変化を引き起こすために、われわれが、何を考え、何を変えなければいけないのかを考究する。個人主義的な教育観から小集団・構築主義的な教育観への変更、単一専門性幻想から共同的専門性へのパラダイムの転換など、これまでの常識をくつがえすための方法論を探究してゆく。学生・教

員・学外者が、社会的活動やフィールドワークでの協働作業を通して、実践現場にふれながら、新しい動きとしてのESDに(タッチ)することが目標である。

(5) キャリア科目

現在、大学生には就職活動を始めるときに初めてキャリアについて考えるのではなく、入学時から卒業後・修了後のキャリアについて考え、深めていくことが求められている。この科目群では、実社会でのボランティアを通じて、あるいは実社会で活躍するOB/OG等社会人の講演を通じて、自己のキャリアに関して、またキャリアとは何かという問いそのものに関して考え、深めていくきっかけを掴み、将来に向けて備える能力を高めることを目標とする。

(6) 神戸学

この科目群では、我々の神戸大学が立地する神戸市・兵庫県、瀬戸内海等の歴史と現状に関する理解を深める、あるいは神戸大学そのものに関する理解を深めることを通じて、これからの学生生活を過ごすことになるキャンパス、地域についての理解と関心を深め、学生生活をより有意義にするとともに地域社会と大学とのかかわりについて理解することを目標とする。

(7) データサイエンス

ICT(情報化技術)の著しい進化により、インターネット等を通じて様々な情報が瞬時にやり取りされる時代となり、それらの情報はデータとして蓄積され、ビッグデータと呼ばれている。データサイエンスは、現在、様々な分野において、これらのデータの蓄積を処理・分析し、新しい価値を生み出すための新しい学問である。数学・統計学、情報科学・情報工学におけるデータ処理・分析の技術や、データから如何に有益な情報・価値を引き出すかという点において研究・実践が進展している。

この科目群においては数学・統計学、情報科学・情報工学におけるデータの処理・分析の基礎を身に着けるとともに、各専門分野におけるデータサイエンスの応用事例、社会との関わりを学び、データサイエンスの本質、汎用性そして問題点を理解することを目標とする。それらを発展させ、自らの専門分野や、社会における様々な分野において、課題を発見し、それを様々なデータを通じて解決するための基礎的能力を涵養することも目標とする。

・外国語科目

(1) 外国語第Ⅰ

グローバル社会の主要な共通言語(リング・フランカ)となっている英語について、その運用能力を向上させるとともに、国際コミュニケーションを成り立たせている諸要素への理解を深めることを目標とする。開設科目のうち、**Academic English Communication** と **Academic English Literacy** では、聞く力と話す力、読む力と書く力に重点を置きながら、それぞれ4技能を統合した指導を行い、学術研究で要求される英語力の基礎を総合的に涵養する。また、**Advanced English** では、各自のニーズに応じた各種の英語技能の向上を目指す。

(2) 外国語第Ⅱ

グローバル化があらゆる分野にまで浸透し、人びとを取り巻く多文化状況が日常化してきた今日、英語プラスもう一つの外国語の基礎的な学力と教養を身に付けることが必要である。そこでドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語のうち、一つの語学を選択し、1年次では、発音・文法・語彙・文章表現などの初級レベルの基礎的修得を目指す。2年次では、より高度な文法事項の理解や読解力・表現力などの中級レベルの習得を目指す。3年次では、多様なトレーニングを通して、社会・文化背景などの知識を身につけながら、実践的な運用能力をさらに向上させることを目指す。

・情報科目

コンピュータなどの情報機器とネットワークにおけるコミュニケーションが必須とされる高度情報化社会において、学生はコミュニケーション技術や情報処理、情報収集・発信技術など有効な情報機器の利用方法を学ばなければならない。また、変化の激しい情報化社会に対応するためにはコンピュータやネットワークに関する普遍的な基礎概念と実践的な知識を同時に理解しておく必要がある。情報科目はコンピュータの操作技術を取得し、情報とその取り扱いに関する正しい判断力を養い、それらを日常生活や社会活動に活用できる能力を身につけることを目指す。

・健康・スポーツ科学

健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学である。健康・スポーツ科学では、講義と実習を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目標とする。

・共通専門基礎科目

専門教育を受けるための準備や導入として、複数の学部に通ずる基礎科目を開講している。各学部で行われる専門教育では、専門分野ごとそれぞれの性質に合わせた系統的そして累積的な知識と技術の修得が不可欠である。そこで、共通専門基礎科目では、専門科目を理解し修得するための基礎となる知識や技術を身につけ、基礎的な理論を理解し、学問的なものの見方を養うことを目標とする。